



ICT活用巡回指導訪問レポート

5年

複線型を目指す社会科の授業

赤羽小学校・池本洋太郎先生の実践

「高い土地のくらしと低い土地のくらしの工夫」という大きなテーマの中で、それぞれのくらしや産業などでどのような工夫があるのか、興味や関心がある内容を自分で学習問題に設定して、自分なりの方法やペースで情報を収集・分析して新聞にまとめる授業です。

▶複線型授業(下部参照)を目指す

授業では、高い土地グループと低い土地グループに席を分けて、先生がどちらかのグループに役立つヒントなどの話をしている間、もうひとつのグループは自分たちの課題解決に取り組んでいます。この先は、さらに小さな課題別グループに分かれて「複線型授業」として学習を進めるそうです。

▶必然的な「きたコン」活用

活動中は、教科書を見る、Webサイトで情報収集する、友達と相談する、新聞をつくるなど、それぞれの児童が今の自分に必要だと思う方法を選んで活動をしていました。



それぞれのペースで活動する。

▶情報活用能力を高める

得られた情報を整理して、情報と情報を関連付けて分析し、考察したものを新聞に表現するという一連の情報活用の流れを、児童は経験しながら身に付けていきます。

▶デザインよりも内容重視

新聞制作は「キャンバ」というデザインアプリを使います。たくさんのテンプレートが用意されていて、優れたデザインの作品が簡単にできますが、今回はあえて先生が新聞のテンプレートを用意していました。社会科の学習なので、デザインに気持ちがいき過ぎないようにという配慮です。

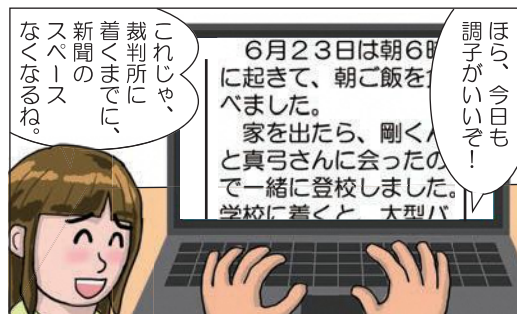
「きたコン」がない頃は、複線型授業はやりたくてもできませんでした。今は家庭学習まで含めて理想的な形で実現できるようになりました。この授業でも、児童は興味・関心をもったテーマを自分で決めているので、全員が集中して学習に取り組んでいました。

※複線型授業：児童・生徒一人一人が興味や関心に合わせて学習問題を設定し、ICTを活用して多様な学び方で問題解決を進める学習形態です。

※単線型授業：ひとつのテーマで知識を習得する際に使われる従来型の学習形態です。

きたちゃんコンちゃん

by Toshi



きたコンの活用で変わる学校 後編

- ▶ICTが苦手なベテラン教員を若手教員がサポートしている姿が見られる。(中学校)
- ▶GIGAが広がり、他区からの異動者も「きたコン」への適応が早く、普通に活用している(多数校)
- ▶ミニ研修等を実施してスキルアップを図っている。放課後や学年内で実施している(多数校)
- ▶本校は令和5年度から児童会に情報委員会があり、毎

週のポスター掲示と全校朝会等で呼びかけをしている。(小学校)

- ▶きたコンを丁寧に使うために、6年生が自分たちでつくったルールを配信している。(小学校)
- ▶プールカードをこの夏からフォームに変更する予定。(小学校)
- ▶3年生ではローマ字入力に慣れるために、保護者と一緒に楽しみながら進める課題を出している。(小学校)
- ▶校内研修会でジャムボードを使ったら、授業での使用が広がった。(小学校)